

上 武 大 学
ビジネス情報学部紀要

第2巻 第2号

2004年3月

論 文

現代社会における都市と環境の公共性と社会的共通資本

..... 家木 成夫 (1)

中国の銀行会計制度と不良債権処理 石井 明 (11)

地域活性化への一提言 中村 孝一 (43)

公正に対する選好と社会厚生関数 森 統 (51)

上 武 大 学
ビ ジ ネ ス 情 報 学 部

『上武大学ビジネス情報学部紀要』刊行規約

第1条（事業の目的と内容）

上武大学ビジネス情報学部は、本学部に所属する教員の学術研究の推進および学術研究を通じた本学部内外の交流を図ることを目的とし、学部長を発行人として、『上武大学ビジネス情報学部紀要』を刊行する。

2. 『上武大学ビジネス情報学部紀要』は、原則として年2回刊行する。

第2条（組織）

前条の事業を行うために、上武大学ビジネス情報学部紀要編集委員会（以下、編集委員会と呼ぶ）を設置する。

2. 編集委員会は、本学部専任教員のなかから選出された編集委員長1名と編集委員若干名により構成する。
3. 編集委員長および編集委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

第3条（査読）

投稿原稿は、編集委員会が依頼した査読者の審査を経た上で、編集委員会および発行人の承認を得て掲載する。

第4条（事務委嘱）

編集委員会は、事業を円滑に遂行するため、事務の一部を上武大学付属図書館司書室に委嘱する。

附 則

1. 本規約は、平成14年4月1日から施行する。
2. 『上武大学ビジネス情報学部紀要』の投稿・執筆要綱は別に定める。

『上武大学ビジネス情報学部紀要』投稿・執筆要綱

1. 投稿者は、次に掲げる者とする、
 - (1) 上武大学ビジネス情報学部専任教員
 - (2) 紀要編集委員会の認めた者
2. 募集原稿は、論文・研究ノート・調査資料・翻訳・書評などである（これらの区別を明確に表示する）。
3. 原稿は、和文または欧文とし、最初の頁には、題名、著者名（共著の場合には、共著者の所属も併記）、キーワード（5語～10語）を明記する。
4. 原稿の字数は、特別な場合を除き、40000字を最大限度の目安とする。
5. 紀要の体裁は、B5版、横書き本文40字×33行（縦書きは縦28字×23行・2段組み）である。
6. 原稿は、完成原稿とその写し、各一部を、所定の事項を記入した投稿申込書とともに提出する。
7. 投稿者は、次の表記法に留意して執筆する。
 - (1) 横書き200字または400字詰め原稿用紙を用いることを原則とする。ただし研究分野によっては縦書きの原稿用紙を用いてもよい。
これらの原稿はすべて筆記または印字されたものとする。
 - (2) ワープロ使用の場合、原稿はワープロ用紙に印字されたものまたはその複写とする。
なお、印刷（校正刷り）の都合上、印字された原稿またはその複写とあわせてフロッピー・ディスク（テキスト形式による）を提出することが望ましい。
 - (3) 楷書・新仮名使い・新字体使用を原則とする。（ただし、固有名詞・引用文は例外とする）
 - (4) 句読点はカンマ（,）とマル（。）を用い、符号、・「」『』（）～等は1字分とする。
 - (5) 傍点は当該文字の上部に打つ。
 - (6) 欧文は、本文・注記ともダブル・スペースで仕上げる。
 - (7) 各節または各章には数字とともに標題をつける。その際、大区分にローマ数字（大文字）を用い、中区分に算用数字を用い、各数字の次にはピリオドを打つ。
 - (8) 本文中の数字は、原則として、アラビア数字を用い（ただし、概数・化合物の名称・熟語・成句・固有名詞・数の意味が全くないもの等は和数字を用いる）、アラビア数字が2字以上続く場合は、数字2字で原稿用紙1字分とする。

桁数が多く兆・億・万などの単語を入れたほうが良い場合は、〔例6〕のように記入する。（この際は、位取りカンマを入れない）。

〔例1〕 1つ, 1点, 1人当たり10g, 第2に, 第2次世界大戦, 前2者, 2通り, 4捨5入, 5・15事件, 19—20世紀, 3・4日

〔例2〕 数十日間, 数百キログラム, 百数十ページ, 何千人

〔例3〕 一酸化炭素, 四三酸化鉄

〔例4〕 第1四半世紀, 第2四半期

〔例5〕 一定, 均一, 一般, 一義的, 一足跳び, 一部分, 同一視, 三途の川, 十分条件, 八百屋, 二百十日

〔例6〕 38億8823万人, 7万6000人

- (9) 図および表については、原則として図と表を区別して表記する。これらは、原則として別紙に描き、通し番号（算用数字）・題目を図の場合には図の下側、表の場合には表の上側に付けて、本文中の挿入場所を明確に指示する。

図・表の換算率——刷り上がり6cm四方の図・表の場合、本文の18字×10行に相当する。

特に正確を期する図は、グラフ用紙に作図し原図を提出する。

- (10) 注記は原則として本文の後にまとめて記す。本文中の注記番号は上付1/4角で以下の例のように付すものとする。

例)

法人所得の二重課税が一部緩和されるようになった⁹⁾。

ただし、執筆の都合に応じてそれぞれの研究分野の慣例に従ってよい。

- (11) 参考文献または引用文献はまとめて注記の後に記す。文献の表記は原則として次の要領で行い、本文中に引用する場合もそれに倣う。ただし、研究分野によって慣例のある場合は、それに従ってよい。

①単行本：著者（編者）名，書籍名，発行地，発行所名，発行年，ページ

翻訳本：著者（編者）名，書籍名，訳者名，発行所名，発行地，発行年，ページ

論文：著者名，論文名，雑誌（収録書物）名，巻数，号数，発行年月，ページ

②書籍名：雑誌名が日本語・中国語等の場合は『 』で、欧語の場合はイタリック（イタリック指示は該当箇所に赤でアンダーラインを付す）で、イタリック活字のない場合（例・ロシア語）は《 》で表示する。

③論文名が日本語・中国語の場合は「 」で、欧語の場合は“ ”で囲む。英語圏等の外国人著者名については以下のように記す。

例)

単著の場合 Paton, W.A.

共著の場合

2 名の場合 Johnson, L.T. and R.K.Storey

3 名の場合 Gibbs, M., W.R.Kinny and F.H.Barron

8. 校正は 3 校を限度とし、印刷上の誤りや不備の訂正を主眼とし、原稿の改訂は避ける。
9. 本紀要には別に定める規約に基づき Rapid Communication として受理された論文等を掲載する。

Rapid Communication 投稿規約

1 (目 的)

研究成果の先駆性・速報性を確保するため。

2 (執筆権者)

上武大学ビジネス情報学部(商学部)専任教員およびその共著者。

3 (原稿提出)

- 原稿は紀要編集委員会に提出すること。
- 提出原稿は紀要編集委員会の依頼した査読者の査読を通じ学部長の承認を経て Rapid Communication とすることができる。なお、学部長の承認を得た日をもって受理年月日とする。
- 原稿の執筆要領は『ビジネス情報学部紀要』の執筆規定に準じる。

4 (Rapid Communication の体裁)

- 受理された論文は必ず印刷されたものか、またはワープロ印刷で両面コピーしたものにすること。
- 用紙の大きさはB5版、本文の字の大きさは10ポまたは10.5ポ、注の字の大きさは9ポ、字体はいずれも明朝体とする。なお、本文横書き一頁あたり40字×33行とする。
- 論文の最初の頁にはタイトル・キーワード・氏名および所属と共に受理年月日を記入し、さらに表と裏に指定する表紙(最初の頁のタイトル・キーワード・氏名・所属・受理年月日のスペースに対応する部分がくりぬかれたもの)を重ね、ホッチキスでとめること。なお、原稿の提出年月日および受理年月日は紀要編集委員会が別に記しておく。

5 (論文別刷)

- 受理年月日以降には論文の別刷を作成して配布することができる。別刷作成は、その部数に制限はないものとするが、全て各自の負担(手間・費用共)で行うこと。
- Rapid Communication の論文別刷は5部を紀要編集委員会に提出するものとし、当委員会はこれらを上武大学附属図書館に保管する。

6 (位置付け)

Rapid Communication は『ビジネス情報学部紀要』に属する原著論文とし、原則として次に出る号のRapid Communication として改めて掲載する。

執筆者一覧（掲載順）

家 木 成 夫（環境経済学・公共政策論）
石 井 明（会計学）
中 村 孝 一（商品学）
森 統（公共経済学）

編集委員

磯 和 男（委員長）
中 村 孝 一
森 統
佐 藤 公

上武大学ビジネス情報学部紀要

第2巻第2号
（通算第52号）

2004年3月24日 印刷

2004年3月30日 発行

発行人 西 眞 平

発行所 上武大学ビジネス情報学部
〒372-0825 伊勢崎市戸谷塚町634-1
TEL. 0270-32-1011代

印刷 学校法人 学文館法人本部財務部印刷課
群馬県高崎市片岡町1-15-19
TEL. 027-327-9192

**Bulletin,
Faculty of Business Information Sciences,
Jobu University**

Volume 2, Number 2

March 2004

Articles

- The Publicness of Cities and Environment, and Social Overhead
Capital in Contemporary Society IEKI Naruo (1)
- The Accounting System for Banks and the Bad Loan Issue in China
..... ISHII Akira (11)
- A Suggestion for Regional Activation NAKAMURA Koichi (43)
- Preference for Fairness and Social Welfare Functions
..... MORI Osamu (51)
-

**Published by
Faculty of Business Information Sciences,
Jobu University**